

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 結果

学校名	鳥栖市立田代中学校
1 前年度 評価結果の概要	・昨年度の全国学力・学習状況調査の生徒質問紙の「1. 2年生のときに受けた授業で、PC・タブレット端末などのICT機器を、どの程度使用しましたか」という問いに対して、肯定的な回答をした生徒の割合は、全国や県と比べて大きく下回っていた。これからの社会を生き抜く力の育成や個別最適な学びの実現のためには、タブレット端末などのICT機器を使いこなす必要がある。今年度は校内研においてタブレット端末の効果的な活用について研鑽を深めたい。 ・本校は、500人を超える自転車通学生がおり、自転車運転のマナーの向上が継続した課題である。昨年度は幸い大きな事故はなかったものの、自動車、自転車同士の接触事故や転倒などの自損事故が30件以上発生した。本年度も交通安全教室を2度実施するなど交通安全意識の向上に努めたい。さらに全職員による継続した指導を行うとともに、PTAや地域と連携して一層の安全教育の推進を図っていきたい。 ・不登校や不登校傾向の生徒など学校不適応の生徒が増えてきており、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係機関とのより一層の連携を図ることが今年度の課題である。

2 学校教育目標	心豊かで、たくましく生き抜く力を身につけた生徒の育成
----------	----------------------------

3 本年度の重点目標	①主体的、対話的で深い学びに向けた授業改善（魅力ある授業づくり、タブレット端末の有効活用）を通して、確かな学力の向上を図る。 ②よりよい人間関係づくりに基づき、自主的な活動や自己決定する場面を設定し、豊かな学校生活づくりを推進する。 ③基本的生活習慣の確立や安全教育の充実により、心身の健全な育成に努める。 ④家庭や地域との連携・協働を強化し、コミュニティ・スクールの推進・充実を図り、地域とともにある学校づくりを推進する。 ⑤業務の効率化と時間外勤務時間の削減に努め、働き方改革を推進する。
------------	---

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者
(1)共通評価項目										
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○(学校独自重点取組) ・主体的に学びに向かう生徒の育成を目指し、全職員でタブレット端末を活用した授業の改善を行う。	○(学校独自成果指標) ・授業に主体的に参加したと回答した生徒が80%以上 ・タブレット端末を週に3回以上使用したと回答した生徒の割合で県平均を上回る。	・AIDリル利活用の推奨 ・教科部会での重点目標検討 ・タブレット端末を活用した研究授業の実施 ・小中連携の授業参観の実施	B	・AIDリルの利活用は、それほど多くない状況である。今後も利活用の推奨をしていきたい。 ・各教科で重点目標を設定し、その達成に向けた授業ができていく。いくつかの教科で、実践発表を行った。 ・タブレット端末を活用した研究授業に随時取り組む教科もあるが、中々活用が進んでいない教科もある。 ・小中連携の授業参観を実施予定である。	A	・学校評価アンケートで授業に主体的に参加したと回答した生徒は95%で、目標を大きく上回ることができた。 ・タブレット端末を週に3回以上使用したと回答した生徒の割合は31.6%で、県の24.0%を大きく上回ることができた。 ・全教科で研究授業、授業研究会、研究報告会を行い、それぞれの取り組みに対する成果と課題を共有することができた。 ・小中連携の授業参観を実施できた。	A	・昨年度まで、県学習状況調査や全国学力・学習状況調査において、それぞれ県平均を下回っていたが、本年度はそれを上回ることができたことは素晴らしい。これまでの先生方の取り組みの成果が出ていると思う。 ・タブレット端末に関しては、今後も効果的な活用を模索していただけたらと思う。	・学力向上コーディネーター(納富) ・研究主任(坂口)
	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした生徒の割合が75%以上。	・思考や価値判断を伴う道徳の授業が毎週展開できるよう、学年で協力しながら教材研究にあたる。	B	・学年ごとに協力しながら、教材研究にあたる ことができた。 ・思考や価値判断を伴う道徳の授業になるように深く教材研究を進める。	A	・学校評価アンケート(生徒)では、約90%の生徒が道徳の授業で、友だちと意見を出し合うことが、多面的・多角的な考え方につながっていると感じている。 ・「いじめ・いのちを考える日」の毎月の取組を通して、様々な人権課題について考えを深め、豊かな心を身に付ける教育活動に寄与した。	A	・アンケート結果から、有意義な道徳の授業や人権教育が実践されたことが分かる。来年度も継続して欲しい。	・道徳教育推進教員(森) ・人権・同和教育担当(太田家)
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○安心安全に過ごせる学び合う集団であると回答した生徒の割合が75%以上	・年10回以上のアンケートを実施 ・いじめのいのちを考える日の毎月実施 ・週毎の生徒指導委員会にて、いじめ事案の経過を確認する。	B	・アンケートを定期的に実施し、早期対応することができた。生徒指導委員会でも、情報を共有できているため、具体的な対応方法までしっかりと確認できるようにしていく。	A	・学校評価アンケートで安心安全に過ごせる学び合う集団であると回答した生徒は92.6%で、目標を大きく上回ることができた。 ・いじめ命を考える日を毎月実施し、予防や早期発見に務めた。	A	・子どもたちが安心安全に過ごせることが一番である。来年度も未然防止、早期発見・早期対応を心がけた実践をお願いしたい。	・生徒指導主任(大石) ・教育相談(宮本)
●心の教育	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒75%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒75%以上	・系統的なキャリア学習の展開やキャリアパスポートの効果的な活用を通して、中・長期の展望を持たせる。 ・進路に関する掲示物の整備や講演会の実施、職場体験、職業講話などを通して、進路に関する関心を高める。	B	・体育大会や文化発表会に合わせてキャリアパスポートを記入し、目標に沿って活動させることができた。 ・進路に関する掲示物や職場体験のレポートの掲示は、学年の状況に応じて行うことができた。職業講話については、3学期に実施予定である。	B	・「先生はあなたのよいところを認めてくれている」と回答した生徒は84.6%、「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした生徒は73.2%であった。職場体験や職業講話、将来の夢や希望を持つことが難しい生徒への支援を行うことで、来年度は75%以上を上回ることを目指したい。	B	・職場体験を継続していただけたのは、とても良かった。子供たちにとってはとても有意義な体験になるので、先生たちの負担は大きいと思うが、是非継続していただきたい。 ・中学生で自分の夢(職業)を持つことは、なかなか難しいのでは。D9	・進路指導主事(末永) ・各学年進路担当(瓜生、末永)
	○生徒会活動の活性化を通じて、支え合う人間関係づくりを推進	○不登校生徒数(出現率9.2%)を、前年比で減少させる。	・生徒会の自主性を高める活動推進(各種行事の実行委員会制、生徒集会のあり方の見直し、校則の見直し等)	B	・「明日も来なくなる学校づくり」のスローガンのもと、生徒会活動に取り組んできたが、新しい活動を企画するにはいたらなかった。行事では実行委員会を立ち上げ、自主的な活動を行う中で、支え合う人間関係づくりを推進した。	B	・不登校生徒数の出現率は11.5%と昨年度より増えてしまった。そこで、中間評価で述べたように、来年度は、新しい企画や実行委員会形式の取り組みを増やし、学校での自己有用感や所属感を高めたい。	B	・不登校の出現率ではなく、どのような活動を行い、どの程度活性化を図れたかを成果指標にあげてみてはどうか。	・生徒会担当(末永)
	●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間でも420分以上の生徒70%以上 ②年代スタイル(無言清掃・時間・あいさつ)の実践率を、前年度比から向上させる ③「健康に良い食事をしている」生徒70%以上	・運動やスポーツを安心安全に行える環境づくりを絶えず行う。 ・年代スタイル(無言清掃・時間・あいさつ)の取り組みを、生徒会活動の活性化を通して推進する。 ・給食や家庭科の授業等を通して、望ましい食習慣と食の自己管理の大切さを指導する。また、家庭実践が出来ているか、授業の中でアンケートを取り、その結果を次に活かす。	B	①昼休みに外で遊ぶ生徒が多いため、トラブルが起きないようにグラウンドの利用について周知・徹底していきたい。 ②各専門委員会の各月の活動として、生徒が主体的に年代スタイルの励行に取り組むための取り組みとして、好き嫌いをしている生徒が増えた様に感じる。食事の役割や栄養素については2年生で学習する。今後自己管理につなげられる指導をしていきたい。	B	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間でも420分以上の生徒が66%とやや目標には到達しなかった。来年度は70%を目指す。 ②ノーチャイムや挨拶週間などの取り組みを通して意識の向上を図ることができた。しかし、無言清掃においては、十分に取組ませることができなかったため、来年度は清掃指導の在り方を改善していく。 ③学習状況調査の「毎日朝食を摂取しているか」という質問に対し「摂取している」とどちらかといえば「摂取している」の割合が93.8%と比較的高い数値となった。来年度は95%以上を目標にする。	B	・部活動の地域移行はどの程度すすんでいるのか。地域全体で改善が図れば良いと思う。 ・清掃に取り組む姿勢は、生涯にわたって必要なスキルである。家庭でも整理整頓の習慣を育てる必要がある。 ・朝食の習慣はこのまま続いて欲しい。
○「安全に関する資質・能力の育成」		○自転車のルール遵守とマナーアップモデル校として、交通自転車事故防止啓発を強化し、事故率を前年度よりも減少させる。	・交通安全教室の実施(特に1年生) ・PTAと連携して自転車点検や通学路点検を実施する。	B	・PTAと連携して自転車点検や通学路点検を行うことができた。 ・大きな事故は起こっていないが、並進やスピードの出しすぎなど、交通マナーに対する地域からの苦情が多かった。	B	・大きな事故はなかったが、事故が16件から20件と昨年度よりも増加してしまった。来年度は放送による注意喚起だけでなく、交通ルール・マナーを守る生徒の育成のための指導の在り方を工夫・改善していく。	B	・交通量も多く、狭く危ない道もあるので、命を守る指導をお願いしたい。 ・もう少し、早く家を出ると余裕のある運転になる。	・安全指導担当(末松)
●業務改善・教職員の働き方改革の推進		●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。(昨年度より10%削減)	・定時退勤日の設定及び徹底 ・管理職による職員の勤務実態の把握 ・会議・行事等を見直し縮減を図る。 ・業務の組織的運営と平準化を図る。	B	・業務記録表の打刻は意識して行う職員が多く、勤務実態は把握できている。しかし、定時退勤日の意識がやや薄れている。また、業務改善に向けた話し合いが進んでいない。	B	・定時退勤の徹底ができなかった。しかし、会議等の短縮のための工夫をしたり、次年度に向けた業務改善の組織改編への話し合いが進んだ。それらを通して職員の意識改革を図った。	B	・年休を取得しやすいように、自習の準備をしておくことよい。 ・仕事の特性も分かるが、職員の意識を変えることも大切である。
●特別支援教育の充実	○(学校独自重点取組・任意) ・全職員で生徒の特性を加味して特別支援教育を取り組む。	○(学校独自成果指標・任意) ・授業記録に毎回記録する。	・職員研修を行って推進を図る。 ・授業記録に授業で知り得た生徒の特性を記録し、共有する。	B	・授業記録への記入はされているが情報共有の場が充分ではないので、今後、部会の充実を図りたいと思う。	B	・授業者の授業記録を基に生徒に支援でき、部会での情報交換を行えた。ただ、授業記録が複数冊になると記録する時間が不足するので、今後改良を重ねていく必要がある。	B	・特別支援学級の担任が、授業記録に書いて欲しい内容をしぼっておくことが大切。有効な手立てにつながる情報を集める。	・特別支援コーディネーター(古賀)
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○小中一貫教育の充実	○教科「日本語」の実践充実	○教科「日本語」に係る情報を通信等で発信(学年、学級)することができたと回答する教員70%以上 ○自分の子どもは、あいさつや礼儀・マナーの意識を理解し、意識して生活していると回答する保護者80%以上	・年間授業時数の確実な実施(1年生20h、2・3年生35h) ・特別非常勤講師を招聘した体験活動の充実(茶道、着付け、俳句・川柳等)	B	・講師を招いての体験活動は1年生で1回実施し、文化発表会で作品を展示することができた。2年生では、着付け体験を3学期に行う予定である。このことを保護者に周知することに努めていきたい。	B	・通信等で発信できたと回答する教員が50%と目標を達成することができなかった。保護者への周知もあまりできていなかったため、体験学習等をしたときには、教科「日本語」として取り組んだことを、発信していきたい。	B	・小中一貫教育の中で系統的な取組を構造化することが有効であると思う。	・教科「日本語」教育コーディネーター(山田)
○コミュニティスクール(学校運営協議会)の機能推進	○機能推進、地域人材の活用、地域貢献・奉仕活動等の推進など。	○年5回の協議会開催(授業参観含む) ○地域人材の活用、地域貢献・奉仕活動等の実践(昨年同等+α)	・年間計画を立て、効果的に実施し、協議会委員の意見を参考に改善を図る。	B	・11月末現在で、学校運営協議会を3回開催し、授業参観等を行った後に学校の現状、課題について協議を行った。 ・協議の際に話題になったコミュニティ・スクール通信について、3回マチコミで配信するとともにホームページにも掲載し広報活動に努めた。	B	・学校運営協議会を5回開催し、授業参観の後、学校の現状を報告し課題について協議を行った。 ・色々なご意見をもとに、地域、PTAと連携した活動を行うことができた。また、活動した内容についてはコミュニティ・スクール通信に掲載し広く広報することができた。	A	・地域の清掃活動や祭りに、中学生が参加してくれてありがたかった。今後もこの取り組みは継続していただきたい。	・管理職(副校長)

5 総合評価・ 次年度への展望	●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育	・本年度は県学習状況調査、全国学力・学習状況調査において、学力の向上を見ることができた。今後も授業改善を継続したい。また、タブレット端末においては、昨年度に比べ大きく活用率が上がったので、来年度はより効果的な活用のあり方を全教科全領域で探りたい。 ・本校は、500人を超える自転車通学生がおり、自転車運転のマナーの向上が継続した課題である。幸い大きな事故はなかったものの、自動車、自転車同士の接触事故や転倒などの自損事故が昨年度よりも多く上発生してしまった。交通安全教室を2度実施することにより交通安全意識の向上に努めたが、さらに全職員による継続した指導を行うとともに、PTAや地域と連携して一層の安全教育の推進を図っていききたい。 ・不登校や不登校傾向の生徒など学校不適応の生徒が増えてきており、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、関係機関とのより一層の連携を図ることが次年度の課題である。
--------------------	------------------------	---